

産業厚生常任委員会視察研修報告

産業厚生常任委員長 久川治次郎

平成30年9月27日～28日

岡山県英田郡西粟倉村・苫田郡鏡野町

私ども産業厚生常任委員会は、岡山県英田郡西粟倉村でローカルベンチャーの実態と、苫田郡鏡野町で町営の国民健康保険病院の優れた経営実態について視察研修を行いました。

まず、西粟倉村ではローカルベンチャーの実態について研修させていただきました。ローカルベンチャーとは地元での起業であり、個人やグループが地域で起業し、それを自治体が応援し地元雇用を進める、そして定住を促して村の活性化を目指すというような施策です。

西粟倉村は、面積57.9km²で、内95%が森林、人口1,468人、高齢化率35.8%とコンパクトにまとまった村だというのが第一印象でした。

平成の合併をせず、村独自の地方創生の取り組みをし、「百年の森林構想」などの上質な林業立村を目指し、新産業の創出という目標に向け、地域資源として森林を見直した林業再生の道を歩んでいる村です。

私達は今まで、Iターン・Uターンで人材が町内に帰ってきて欲しい、また移住者に対し何かの仕事を構えなくては、なかなか帰ってくれないと思っていましたが、今回の西粟倉村の取り組みは全く考えが異なる面で驚きを感じました。ローカルベンチャーの起業という取り組みは、自治体などが仕事場を構えるのではなく、個人やグループに地元で起業をしてもらい永住をしていただく、起業については多種多様で個人の構想・アイデアを尊重し自由な発想で起業してもらうことを主眼におき、西粟倉村を拠点に起業できる事業計画を募集し、移住条件などにより地域おこし協力隊制度を活用、3年後の自立を目標にできる人材の育成を重要課題としています。他ではなかなか考えつかない手法で人口移住・定住を図り、村の活性化を進めています。確かにコンパクトな自治体ならではできる事かもしれませんが、本町においても参考になる面が多い視察であったと思います。

岡山県苫田郡鏡野町は人口1万3,000人程で、中国自動車道の院庄ICに近い穏やかな中山間地で、のどかな農村の風景が広がるところにあります。鏡野病院は町の南部に位置し、半径5km以内の利用者は町外を含め2万人ほどを数え、3つの診療

所を抱える鏡野町の医療の中核病院として、信頼される病院づくりに日々研鑽を積む自治体病院です。一般病棟が48床と本町の医療施設より少し大きなスペースの病院ですが、診療科目も内科・外科・整形を含み、小児科の存在も大きなアピールの一因でなかろうかと思えます。利用者も鏡野町内だけに留まらず、町外からの患者数も多く訪れ、収入の50%が外来患者という点も、この医療施設の強みになっているのではと思います。

医師についても常勤の医師が8名で、内5名が町職員、非常勤の医師も3名来てもらい3箇所にある診療所の運営をしており、やはり中核の鏡野病院でなく3箇所の診療所の運営は少し重荷になっているとの事で、本町と同じ苦労があるように思われます。

看護師についても、現状は満たしているとの事ですが、産休などの人も数人おり慢性的に人数不足だとの事で、看護師の確保についてはハローワークや町報などを利用しPRを行い、看護科のある高校等にもお願いするなど、かなり人材確保には苦労しているようで、力を入れている感じが窺われました。その中であって、看護師に対し月1回の専門家によるカウンセリングを実施し役立っているとの事で、これは参考にするべき点のひとつであると思えます。

自治体病院は何処とも少々の赤字は仕方ないと思えますが、やはり立地条件や診療科目の種別の増設は、運営上大きなメリット・デメリットがあると感じた研修でした。